オンサイト　2027年2月6日(土)

オンデマンド配信　2027年2月15日(月)～2月26日(金)

会　場：一橋講堂中会議場（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）

主　催：特定非営利活動法人 日本がん検診・診断学会

参加費：会員 5,000円　非会員 7,000円

※受講者には、がん検診認定医更新25単位が付与されます。
※参加申し込みは、2026年11月上旬ごろを予定しています。

日本がん検診・診断学会 第3回教育講演会のご案内

開催のご挨拶

大会長　井上 和彦（淳風会健康管理センター センター長）

本学会は各領域のがんのスクリーニングを専門とする学会が結集し、本邦におけるがん対策に取り組んでいます。この度、令和8年度の第3回教育講演会の会長を拝命し、令和9年2月6日(土) に一橋会館で開催することとしました。

私自身、長い間、胃がんをはじめとする消化器診療に携わってきましたが、スクリーニングの重要性を感じています。‘がん’症例に対して拡大内視鏡などの精査を行い、内視鏡的粘膜下層剥離術で治療することは非常に重要です。そのためには粘膜内に留まる早期胃がんを発見しなければなりません。スクリーニング内視鏡は一見簡単のように見えますが、実は最も難しいのかもしれません。また、胃がん発生にヘリコバクターピロリ感染とそれに伴う胃粘膜萎縮や胃粘膜炎症が強く関連していることは明らかであり、スクリーニングにおいてもリスクは重視すべきと考えています。

現在、肺がん・大腸がん・胃がん・乳がん・子宮頸がんの5つが対策型がん検診として行われています。胃がんについては平成26年に胃X線検査に加え内視鏡検査が、子宮頸がんについては令和6年に細胞診に加えヒトパピローマウイルス検査が検診法として認められました。肺がんについても2025年4月25日に公開された「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン2025年度版」では、重喫煙者(喫煙指数600以上)においては、低線量CTを推奨グレードAで実施することが推奨され、今後任意型検診のみならず、対策型検診でも採用されることが期待されます。新たな科学的根拠を示すことによりがん検診システムを変更し効率的なものにすることができます。

さて、国立がん研究センターのがん情報サービスによりますと、2023年の男女計の部位別がん死亡数は①肺がん、②大腸がん、③膵がん、④胃がん、⑤肝臓がんの順番です。一般的に早期発見が難しく、予後が悪いとされている膵がん対策は喫緊の課題と思われ、本学会でも取り組まなければなりません。

各種がん検診の方法などが改訂され、また、新たに取る組むべき課題もありますので、本教育講演会のテーマは「承前啓後、がんスクリーニングの近未来像」としました。今まで受け継いできたものを大切にしたうえで未来を切り開いていきたいと思っています。

お問合せ先
日本がん検診・診断学会 第3回教育講演会事務局
〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 3-11-15 6F
e-mail:seminar2027@jacdd.org

※特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会の認定医制度につきましては、https://www.jacdd.org/index.php?page=info_a04011 をご覧ください。